算命占星学〈2〉

天中殺入門

自分の波を知る驚異の知恵

和泉宗章（いずみ そうしょう）

PLAYBOOKS

天中殺に事を起こすと必ず破滅になる

本書はあなたの一生の秘密をさらけ出し、
どう幸運をつかむかズバリ証（あか）す。

青春出版

読者のみなさんへ

この本をお読みになって、特に感銘をもたれたところや、ご不満のあるところなど、忌憚のないご意見を当編集部あてにお送りください。

また、わたくしどもでは、みなさんの斬新なアイディアをお聞きしたいと思っています。「私のアイディア」を生かしたいとお思いの方は、どしどしお寄せください。これからの企画にできるだけ反映させていきたいと考えています。

なお、採用の分には、記念品を贈呈させていただきます。

青春出版社　編集部

算命占星学〈2〉天中殺入門

著者　和泉宗章

発行者　小澤和一

検印を廃す

発行所　東京都新宿区若松町73番地 〒162　株式会社 青春出版社

電話（203）5121（代表）　振替番号 東京9-98602

印刷・中央精版印刷　製本・誠幸堂

0200-120500-3822

© Sousho Izumi 1979

占星学〈2〉

中殺入門

——自分の波を知る驚異の知恵——

和泉宗章

――お読みになる前に

人間は一生の中で、誰でもこの〝天中殺〟にいく度か遭遇します。そして、この時あえて事を起こせば必ず破滅になるとされ、その禍いは避けることはできません。しかし、自分の〝天中殺〟を予め知ることによって、その対処のあり方で逆に幸運をつかむことができます。この難解極まりない天中殺現象を、本書が最も平易に解明したのは、はじめての快挙です。読まれるにあたって、いたずらに軽率な扱い方を絶対されぬよう、はじめにお願いしておきます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor

発刊にあたって

今度、直門下和泉宗章君が天中殺の書を出版することになりました。宗家といたしましてはまことに嬉しいことであります。和泉君は占術界では珍しい感質の持ち主で、ある種のインテリジェンスが天凜の気として具わっています。その感性によって、天中殺を真正面からとらえた処に、この書の独自性と意義が存在しているように思われます。この書の出現によって、今まで難解極まりないとされてきた天中殺現象を、平易に理解できることは、よろこび大なるものがあろうかと思います。一般読者の方々はもちろん、私の弟子たちにとりましても、長い人生の旅の中で一つの道標を、また人生の天気図を手に入れることになるでしょう。

天中殺は古代の東洋人が後世の同朋に残してくれた偉大なる知恵の遺産であります。人間の一生の中で、この天中殺を知り得るだけでも人生の禍いの三分の一を除去することができます。元来、人間の禍いは、大別して三つの分野に区分することができます。

その第一は「宿禍」と呼ばれているもので、人間が生まれながらに持っている「因縁」のようなものです。そのために、遠い祖先から血の流れと共に綿々と続いた、ある種の「業」であります。

第二は「天禍」であります。これは人間の知恵や努力では如何ともし難きもので、神からあたえられる「天災」のことです。地震や台風等がこれに入ります。

第三が「紫禍」と云われているもので、人間が作り出す、つまり人災であります。人間が人間なりに考え、行動した処の事象によって災いが生じる、舌禍、別離、倒産、争い、精神不安等数え上げればきりがありません。大きく見れば、国と国との戦争等は人民を損じて虚をもたらす最大の紫禍といえるでしょう。天中殺の理論は、この紫禍を最少限にくい止めるために考案された理論なのであります。

天中殺の故郷は古代中国の殷帝国であり、そこに栄えた殷文化の陰陽理論であります。現代に生きる我々も先祖が残してくれた遺産を無駄にすることなく、大いに活用しようではありませんか。それがまた我々の役目でもあり、後世に伝えていかなければならないはずです。

天中殺はある一時期、人間の世界から忘れ去られ、遠い過去のものとなっていました。しかし、一部の識者の手によって受継がれ、天中殺理論の灯をたやすことなく、現代まで生き続けて来たのであります。四千数百年の長きに渡って天中殺理論を継承し、後世に伝えてくださった幾多の陰陽師の霊に、感謝しなければなりません。この書によって天中殺は再び日本の地で、蘇生することができました。この書を手にされた読者諸氏も、いつの日にかまた子へ孫へ伝え聞かせ、二千年、三千年後の同朋のために伝えられんことをお願いいたします。

昭和五四年五月

朱学院宗家　高尾義政

はじめに……自分の波を知って幸運をつかむ

天中殺ブームが起きてしまいました。それも私が『算命占星学入門』という本を書いたことに起因しています。これ程までの反響になるとは、正直にいって予想できませんでした。これまで、占いの本は二十万部が限界とされてきましたが、発売してから今日までの数ヵ月で、八十五万部を越えるとは、誰一人として想像し得ませんでした。

これは異常な出来事です。何故このようなことになったのでしょう。いくつかの条件が重なった結果であることは明白ですが、そのうちの一つとして、そしてまた大きな原因の一つとして、次のようなことが考えられます。

今まで占いの本を出す場合、その著者や出版社は良いことをできるだけ強調し、悪いことにはベールを被すという姿勢を取り続けてきました。つまり悪いことをいわないということです。これは、必要以上に不安や動揺を与えてはならないという、いわば人間の常識から出ていることで、これ自体は決して誤った考えではありません。その一方で、世間一般の捉え方として、良いことは信用するが悪いことを言われたときには信じない、という風潮が長いこと続いてきました。

そこへ、天中殺はさまざまなトラブルが集中し、あえて事を起こせばその不運を避けることは不可能だと断言、なおかつその実例をテレビ番組で取り上げました。このことが直接の衝撃とな

り、大きなブームを巻き起こす結果になったわけです。

その結果だけで判断すれば、世間を不当に騒がせるとして非難を浴びせる人も出てきます。が、私はあえてその非難を受け流すつもりです。なぜなら運命というものは、一定の幸運と一定の不運とによって構成されており、幸運だけを、つまり良いことだけを見ていたのでは、本当の自分を正確に捉えることができないからです。幸運と不運そのままを素直に見つめることによってのみ、巡りくる運命に対して冷静に対処することが可能となります、特に不運を事前に知るのは、知らずにいるよりもはるかに軽いショックで済ませることができます。また、不運の真只中にいる人でも、それがいつ終わるかを知ることによって一つの目安をつけ、その期間を耐えることで、強い精神力を身につけることができるのです。

結局、良いことだけを信じ、悪いことを信じないという風潮は、世間を間違った方向に押し流してしまうわけです。また、これはさらに、占いを遊び半分の道具として扱う傾向を生みだすもとを作っています。遊びなら遊びで徹底して遊びにし、それだけに止めておけば何の弊害にもなりませんが、いざ結婚をする、就職する、家を建てるという、人生の大事な分岐点にさしかゝったとき、遊びのつもりで聞いた占いをいつの間にか真剣に取り入れてしまい、そして、後になって大きな悩みにぶつかったとき、それに振りまわされて泥沼に落ち込んでいく人が何と大勢いることでしょう。私が鑑定をする方の中にもこのような人がみうけられますが、この場合私は「ま

ず、占いを忘れてください」とアドバイスします。

占いは大事なときにだけ使う杖でなければなりません。せっかく人間本来の足があって、自分自身で歩くことができるにも関わらず、杖に縋っているのは、まったく不自然極まりない姿です。人生の分岐点で決断がつかないとき、占いを聞いてそれを鵜呑みにするのではなく、出た結論をもとに自分自身で取るべき道を選ぶ。これができない人は、たゞたゞ杖に縋り、振りまわされ、あげくの果てに地獄の底を這いずりまわる亡者となるのがその末路です。

占いを杖として正しく使うためには、強い精神力を必要とします。この精神力を養うためには、不運をあえて受けとめる覚悟をすることが、最良の近道であると私は思います。

この本では様々な天中殺を取り上げて解説していますが、その意図は、不運というものを冷静に見つめることで、あなた自身が精神力を強くしていくところにあります。また、天中殺は不運を巻き起こすものばかりではありません。むしろ利用の仕方によっては、大きな幸運をもたらすものさえ出てきます。

たゞ、占いを遊びとしてしか捉えられない人は、この本を御買い上げにならないよう進言いたします。その理由は先きに述べた通り、結果としてたゞ振りまわされて地獄に落ちることが目に見えているからです。

俗に〝運命は変えられる〟と言いますが、これは正確な捉え方ではありません。運命が一定の

幸運と一定の不運とで構成されている以上、人間はその二つの道程を歩んでいかなければなりません。運命を変えることによって、幸運だけを掴むというわけにはいかないのです。運命を変えることに専念するよりも、不運を消化することで、後に幸運を掴む時期が来ることを知ってください。この意味で、天中殺の不運を消化するのは順当な生き方であり、また幸運なのだということを、はっきり認識していただきたいと思います。

尚、この本の作成に当たり、朱学院宗家、高尾義政先生に、多大の御尽力を頂けましたことを深く感謝申し上げますと共に、青春出版社の伊藤優美子、菊池俊彦の両氏、並びに、日本クリエート社の川北義則氏の御協力に対しても、合わせて御礼を申し述べる次第です。

昭和五四年五月

和泉宗章

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor

〈目　次〉

発刊にあたって　4
はじめに……自分の波を知って幸運をつかむ　6
序章　天中殺に事を起こすと必ず破滅になる……13
1章　あなたの秘密をさらけ出す二つの人体図……25
2章　あなたに関わる年運天中殺……43
3章　あなたに関わる月運・日運天中殺……75
4章　あなたに天中殺はどう現われるか……101

5章　あなたの宿命天中殺を証(あか)す……119
6章　あなたの十大主星が証(あか)す天中殺……135
7章　あなたの十二大従星が証(あか)す天中殺……151
8章　あなたの大運天中殺を予知する……169
9章　あなたの一生の波を予知する……213
巻末付録――年表（明治35年～昭和60年）
主星表　従星表　天中殺表
年運早見表　229

本書の内容についてご質問がおありの場合は、すべて左記へお問い合わせください。

〒101 東京都千代田区神田淡路町二の一　新井ビル2F
和泉宗章事務所
電話〇三（二五三）四一九一～三

本文イラスト　ウノ・カマキリ

序章　天中殺に事を起こすと必ず破滅になる

天中殺はなぜ恐ろしいか

あなたはいままでに「天中殺」という言葉を耳にしたことがありますか、天中殺という言葉を聞いただけでもなにやら恐ろしい、暗示めいた印象をうけると思いますが、たしかにその通りなのです。

算命占星学では、この天中殺のときに独立したり、引越しなどをすることを厳にいましめています。あえてこれに逆らって、このような行動に移すと間違いなく災いがふりかかる——こうまで断定しきっています。

このように自ら積極的に事を起こさなくても、天中殺のときはとかく災いがふりかかってきやすい時期なのです。不運を招きやすいときであるのに、あえてその時期に新しく商売をはじめたり、結婚したりするとどうなるでしょうか。災いは決定的なものになり、もはやとりかえしがつかなくなってしまいます。しかし、前もって自分の天中殺の時期を知り、そのときになったら、いっさい新しく事を起こさない、すべてに受け身の姿勢で日常生活に対処していく——この鉄則を忘れさえしなければ、天中殺の災いは最小限度ですませることができます。

そのためにも本書によって、あらかじめ自分の天中殺はいつなのかを知り、そのときには積極的な行動を起こさないよう、くれぐれも心がけてください。

「天中殺」という言葉を文字通りに解釈すると「天が中殺する」となります。では〝中殺〟とは

いったいどのような意味なのでしょうか。中殺という言葉には「激しく動かして、その機能を止める」という意味があります。

天中殺とはつまり天があなたを激しく揺り動かし、あなたの仕事、家庭、財産、健康、さらには愛情や対人関係まで、あらゆる機能を止めてしまう現象なのです。簡単にいえば、天中殺とはトラブルが発生しやすい時期であり、一定の不運を消化しなければならない時ということができます。

この天中殺は算命占星学の理論体系である十六元法によって理論づけられています。十六元法とは、古代中国の総智を集大成した「鬼谷子算命学」の根本理論である十六の理論体系のことですが、この天中殺はその十六元法に基づいて理論化されているわけです。

それでは天中殺を理論的に説明するとどのようになるのでしょうか。実はこの天中殺論を理解していただくためには、その根本理論である「時間論」「空間論」、そして「地時空間論」とは何かを解説しなければなりません。

そして、さらにこの根本理論を説明するには、先に述べた十六元法のすべて、つまり「天法」「地法」「数理法」「気図法」「八門法」といった各元法をひとつずつ説き明かさねばならず、その意味でも天中殺を理論的に説明することは至難のわざです。そこで、ここでは算命占星学における天中殺論の原理についてのみふれておきます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor